

化阻止へ大衆闘争強化せよ

第 66 回大会

解体への道清めたき指導部

|| 労働者の怒りを左派共闘の拡大へ ||

総評第六十六回定期大会が、帝國主義労働運動派一同：J・Cによる労働の雇傭化攻撃とそれへの総評指導部の屈服、そして民同主流派の分裂、日共・統一労組の動向等々の中で七月五日から四日間、東京、日本青年館で開かれた。今大会会期は、第七回「統一準備会」で決定した「全民協働、年内発足をめぐって、第三に今年三月・五月のわが國の反核・反戰運動をめぐって、第三に今年三月の敗北、春闘七連敗という厳しい金融独占資本の攻撃の中で、また金融独占資本による新天皇主義戰爭準備、軍国一致体制づくりの二環としてある行軍、臨調攻撃に對し、いかに反撃し八三年政治戦をつくりだしていくのかが問われたのである。まさにこの間の右翼的戰術の攻めも以上の点をめぐったものであった。それ故、われわれは今大会にあらわれた階級攻防の特徴をつかみだし、さきこそ大衆的反撃戦への隊伍を整えていかねばならない。

全民勞協「へ右派攻勢」

大空百目、鉄鋼労連中村委員、撃を受けたからである。長による行革断行、日米安保・自衛隊裁減発言は、今日の右翼的労戦統一基本構想の本質がどこにあるのかを示して余りあるものである。それにも増して総評の戦後会参加の前提として、甚

準備会不参加！
大阪二〇〇〇名

れていることが端的に示されているといつて過言ではない。

総評指導部は、当初七月五日の段階で打ちだした「基本構想は棚上げされた。民間金庫連は全民労働に参加する」という旧来の欺瞞的手段に、若干の左寄りのポーズをつけ加えて大会の乗り切りを策したのである。すなわち「基本構想は凍結された」「三庫連（金造船、金海運）の参加が留保」と準備されてきた。

された場合、すでに参加している十二単産の協議会参加を留保するなどの新たな五項目の補強見解を示したのである。

集会では、市川氏、岩井氏、田氏の総評、顧問の挨拶を集会に参加した労働者が熱心に聴き入っていた。

これを植枝・塚家が提案せねばならなかつた背景は次の理由によつてゐる。すなわち七月十三日から開かれた合化労連大会において太田協会系及び日共系代議員（六四組合、百五十二名）が役員問題でボイコットし大会不成立となつたこと、また同じく十三日から開かれた鉄軌総連大会での左派の反

修正が条件ではなかったのか「協
議会へは性急に参加はしないと中
央委で決定したではないか」とい
きのばした。

う批判が続出した。こうした批判の中で、田村書記長は「基本構想の扱いは未決着であり、基本構想と五項目補強見解の扱いを団体協議で明確にするよう求める。全造強再提案に他ならない。しかし第三陣の準備会参加で、選別が行われ、統一推進派は「基本構想が凍結さ

本部に申し入れたことなど、職場一日、本願寺会館をほぼ満席にし、での右翼労戦再編反対のための闘て開催された。

いの報告された。最後に事務局を 集会の準備過程での「労戦の右代表して大教組の東倉氏より閉会 翼の統一反対」を主體的に打ちだす挨拶をうけ、熱気のうちに集会は、打つてゐる形には至らなかつ

たが、民間左派から労働情報系までが結集した。昨年十二月に行なわれた十一・三（協会系）、十二・一〇の二つの集会の勢力が合流した、京都では画期的なものであった。

三顧問集会（大阪・京都 7・7・21・15）成功裏に開催

全港合同、化学一般、国労などによって強力な宣伝・組織戦が行われ、昨年末の三顧問集会をはるかにしのぐ数の労働者が結集した。集会は、三顧問を除いては唯一登壇した林大鳳氏(元動労委員長)の司会で始まった。

基本構想反対

京都九〇〇名
東京・大阪につづく総評三顧問
一派連合の京都集會が、七月二一
ては、書いてある事よりも書いて
帯行動と運動し大衆運動の前進を
ときり出した。「基本構想」に対し

れたのではなく、基本構想並びに（以前の）五項目補強見解の議論が凍結された「三軍産参加が保留される」ような前提での提案は削除すべきだ。等の激しい攻撃にでたのである。また準備会を決めていない金港漢、全印総連、それに宣公芳、鼎評の代議員からは「基本構想は統一推進派の攻撃に屈服する形で」「基本構想と五項目の論議をみてその後の統一対応について協議する」としたのである。

左派の反撃で「闘う再生」を

もはや総評指導部の玉虫色は通じなくなった。総評の解体・再編を帝國主義労働運動の側へ全面的に進めてしまふのか、それとも増としたものであつた。

だが今次大會議案の中で、また富塚提案趣旨説明の中で示されたものは、こうした点を全くあいまいにしてゐる。また「82春關総括」では「ストなし春關の定着化」という批判に対し、その指導的反省を行うよう

會」を作る、反軍反基地、反原発

級の労働組合運動の再生をめざした「総評の闘う再生」を闘いとするのか、事態は左派の共闘した全面的反撃のいかんにかわっている。

「似えは」運動の基調と主要課題」どこが依然として四団体共闘の中で「改憲阻止、徴兵反対、平固執」、「行革」第二臨調」に対する態度では、それとの対決ではな

として労働者階級の闘いにとって重要なことは、先にあげた鉄鋼労連・中村委員長の発言に示された金融独占資本の戦争準備・政治反動攻勢への反撃と、この右翼的労戦統一反対闘争を一体的におし進めようという点である。



3 顧問京都集会

ないことが重要であると訴えた。
安保・原発・自衛隊の増強反対は
のべていない、官公労が闘つてき
た労働基本権・行革もののべてい
い等々と。自らの担った総評の財

たかかう
たかかう

集で勝ち取られ

▲900名の結

判を加えた。米自動車労連の「賃値を下げたじゃないか。公労協の上げの物価スライド・基本給の三仲裁々定に対して全組合員にかけ

2115) 成功裏に開催

独占・反軍拡・反差別」という提
起をしてきたとし、「反差別」は労
働者や勤労国民の統一戦線という
意味であるとのべた。第三世界の
餓死・障害者差別など、部落差別
だけでなく強調した。

臨調に対しては、鈴木内閣の一

をあげ、日本の労働者は生涯で欧米より十年分多く働いてきた。そして「資本主義は限界にきた。なぜ社会不安が起きないのか。賃金・労働時間・作業環境などに小さな政府は治安と国防に予算を」ということであり、戦闘力のある組合をこのさい叩くということである。民間大手は労資一体となつて現場を押へつけている。日産

日経連は社会補償をよくしたらあ
かんというところ、なまけものがで
理した。特徴的なものとして、私
たちの行動綱領ということで「反
川口、東茅府中のリンチ・村八分
はこの典型。真公労も、五年先に
は今日の右翼化のように選択を甘



▲900名の結集で勝ち取られた3顧問京都集会

く、逆に「國民のための行革運動本部」の設置や「對話集會」等が提案され、当初から闘争回避を前提化しようとしているのである。こうした民間右派の方針は、この五月の東京四十万反核闘争を自ら提起しながら、富豪が「反米にならないうように」と語つたことに、そして、

も示されるように「非核三原則」の堅持、憲法改悪阻止、日米安保条約廃棄」等々さても空洞化させていくものである。今回の総評大針の骨格たる「八三年政治決戦」も「管理春闘の機構の打破」や「反自民勢力」に示されるように、民社「同盟」とも「経産参加」連合針をわれわれは徹底的に弾劾せ

政権構想へ向かうための布石としての何物でもない。

八月三日からの日共・統一労組総会では、中西派及び中央派の対立のなかで開かれた。ここで日共

・反戦闘争を頂点とした労働者階級・人民の闘いにその方向を問うている。だが右翼的労働統一派の総評解体・産別攻撃と真正面から闘うことを抜きにして、この勝利の前進は一步もかちとれないことは明白であつた。

まられる。そして結びとして組織については、意見の違いをふまえて、戦争と軍拡路線に反対して闘うという大きな原則で了解しあうべきである。セントの「大連合」とありえない。

組織のあり方については、年内には明らかにしたい、と。

三顧問のまとめとして、**岩井氏**が提起した「反独店・反軍拡・反差別は、内実をめぐって」「労働者綱領」「闘う労組連」とも関連して、

階級的労働運動再生へ

八三年政治決戦に向けて、労働

るであらう。しかし、岩井氏をして「官公労も今日の巨匠のような選擧が五年後にせまられるであらう」とするところ方は、急ビッチで進行する労働の右翼の統一に対し、少し的のずれたものだった。ともあれ、京都地評が全電通・回の総評大会で右翼労働派が攻勢

日通・新産別の右翼統一派三軍座をかかえ、代議員多数派日共一統を一労組連をかかえ、労組問題と流をめぐり七月三日の臨時大会を流を合点させた民間左派の軍座幹部の一派を代表する。この大会で、政治的分水嶺がなされた。八月一日の「全民労協参加大会」で、この大会で、政治的分水嶺がなされた。八月一日の「全民労協参加大会」で、この大会で、政治的分水嶺がなされた。

部と金中、小、労働情報系が台流。それよ弱まることはない。したという意味で、画期的な労働者集会であった。(Y通信員)

階級的勞働 運動再生へ

を総評から大衆的にたたきだし帝
国主義の戦争準備・政治反動・生
活圧迫と闘い階級的労働運動の再
生をめざすことである。こうしたた
闘いを抜きに「階級的センター」は
ありえない。

階級的労働
運動再生へ

の産報化阻止とまきおこつてつめ
る反核・反戦闘争を固く結合させ
大衆的反撃戦を総評内外の闘う労働
働者の共闘態勢の強化 官民共闘
の強化で前進することは闘う労働
者の重大な任務となっている。今
回の総評大会で右翼労戦派が攻勢

にでたことで、政治的分水嶺がますます明確となった。八月二日の「全国一般大会」の「全民労働協参加を見合せる」ということに見られる下部労働者の反撃は、強まりこ

それゆえ闘う労働者に決定的に
問われていることは、破産した民

再侵略へ国民統合

教科書
検 定



検定高校教科書の歴史改ざん問題は、これまでに中国と韓国が公式に抗議と内容更正を求め、中国の受けなければならないだろう。中国共産党機関紙人民日報は、中国共産党機関紙人民日報は、政府が小川文相の訪中を拒否するなど、日本政府は外交上の危機にたたされた。

ここではまずわれわれ日本人は、アジア人民の言葉に傾聴する文部省に釈明を要求して次のように言う。日本の侵略軍による南京

説 歴史の偽造・教科書国家統制
解 で強まる戦争準備・政治反動

大倉組は、中国軍が抵抗した結果だと言っているが、これは日本の若い世代を欺くばかりか、中国人に対する重大な侮辱である。「二略思想を注入しようとするところにその目的がある」とのべている。これはアジア人民のあまりにも

中国・朝鮮・アジア人民の怒りの声

▼「歴史は客観的に存在するものであつて誰であらうと改ざんすることはできない。日本軍国主義は彼らが中国で作り上げたこの世の地獄を『王道楽土』といひ彼らの侵略を、大東亜共荣圏の建設といひ、日本の教科書で侵略を進出だということはできなくても、彼らが中国人・東南アジア諸国民の心の中に残した日本による侵略でかたとしても、彼らが中国・東南アジアに苦い記憶をもつ殺すことはできない」【中国人民日報】

▼「日本の政治の舞台が、あらゆる手段を尽して軍国主義の亡霊を呼び戻そうとしている人々が確かに存在することがはっきりとわかる。」【中国共青团機關紙「中国青年報」】

▼「わが国政府は、日本政府にゆがめられた歴史記述を改めるよう堂々と要求すべきである。そうする一方、これからは疑いの余のない地のない日本の膨張的な軍国主義ムードの復活に対し、われわれなりに長期的な対応策を講ずるべきである」【韓国中央日報】

▼「このままでは日本の中国侵略は中国人民の要請によるものだから、などという口をソロと言いくるめる書き換えが行われるだろう」【台湾連合報】

▼「日本反动層が教科書を書き換へ過去を過去の朝鮮・アジアに対する日本帝国主義の侵略をたたえ、太平洋戦争を肯定する社会的雰囲気をつくりだしている」【朝鮮労働新聞】。

教科書検定制度を廃止せよ

訂し、新しく育ちゆく世に幸曲

働者階級人民はこの見地を支持し
政府の居置りを許さない闘ひにた
ちあがらなければならない。

【注】 南京大虐殺 一九三七年
十二月十三日に日本軍が南京（國
民政府）を占領した際の大質量虐殺
事件。一百万人の中国人が無差別
に虐殺された。満洲国を名とす
る日本軍は意識的に中国人民の
大質量殺を行ったのである。南京
大虐殺事件は、日本軍の可成り大
量な暴行の一端を露したものである。

日本帝國主義と鈴木政府は、帝
國主義戰爭準備のための排外主義
のイデオロギ―統合を、このかん
教科書の國家統制を通じて面策し
てきた。今回の侵略を進出と
改ざんするなどの侵略戰爭の賛美

ばかりでなく、原爆、核兵器・原
 弾、憲法九条、自衛隊、安保、明
 治憲法と教育勅語、家族、愛国心、
 北方領土、さらには社会主義やマ
 ルクス主義、市民運動などの記述
 が中学校、高校の社会科学教科書
 を中心に改ざんされてきている。
 昨年、月に起きた検定済みの中
 学校社会科公民分野の「原発・商
 社・広告等」を通産省・経団連の
 介入によって書きかえさせた、教
 科書書き換え事件、いらい、ブル
 ジョア階級のこの策動は、中教審
 教科書問題小委が「教科書の在り
 方に関する答申草案（本年六月）
 をまとめるに至り、本格的な教科
 書国家統制として進行しているの
 である。

本帝國主義の対中戰略も、これによつて破綻する可能性すらある。また、中國人民につづいて公式に抗議を表明した韓國政府の対日政策にも、今回の日朝史改ざん問題は大きな影響を与へずにはおかないであらう。

事實、八月三日の李範錫外相による対日抗議覚書には、四十億ドル

は、日帝と鈴木政府の全面的支持・承認にもついている。戦争と反動の道をつき進む日帝と鈴木政府にとって、排外主義・権威主義攻撃による労働者人民に対する差別・分断支配のうち固めと、帝国主義戦争への労働者人民の動員化が不可欠なのである。そして、かかる攻撃の最重要環として部落解

米審・臨調へ農民の怒り爆発

生産者米価五年連続引き下げ

政府は七月三日、八二年度生る。①食糧制度について一層の市 士百の賣差表では一諮問を
産者米価を現行の六十kg当たり一 場原理の導へ生産抑制的の生産 撤回し、^ノもうだまされねえぞ
七七五六円から一・一%、一九五 者米価③政府米の売買差の早 ^ノと激しいヤジが田沢農相に集
円上げて一七九五円とすること 期解消④食糧管理方式の見直し 中した。しかし、各農業団体の最
を決定した。この政府決定は、七 一要素するに、食糧制度改廃と低 後に質問した全日農新潟代表の一
月三十日に出された臨調基本答申 生産者米価政策である。これは既 新潟では十六万米作農民のうち十
に込められた、金融融⑤資本の意 二、万が離農しなければならぬ現
向をそのまま反映させたもので、 三、十四日の米価審議会における 状だ。政府は日本農業をつぶしに
五年連続の実質的な生産者米価の 据え置き諮問を通して実行に移さ いかかっているとしか考えられない
き下げである。下層農民切り捨て ている。

という抗議にも、田沢は「兼業農

氣で言つてのけた。
 この発言に会場からは「そんな農業にしたのは誰なんだ」「農業をつぶす気か」「農民に借金かかえて死ねと言うのか」と一齐に怒りの声が巻き起こり、シユブレヒールが続いた。
 翌十四日には、前日に続いて再び会場を取りまいた農民は再諮問のめされた農民の強い危機感と据え置きから逆算して米価算定方式を改悪し、全米作農民の八十％を占める一ヘクター未満の米作農民を切り捨てた政府への怒りを示すものだ。
 米費以、政府と自民党は「政治折衝」なる八三年選挙目当てのサル芝居を行い、中でも米価対策小

骨に对立させ、米価抑制・資金抑制の臨調方針を声高に叫んでいる。ここに今年の米価決定の本質が暴露されているといふものだ。

全国の読者諸君、労働者の資金抑制、下層農民切り捨てをもつて戦費準備、政治反動へ突き進む臨調基本答申を、労働者・農民の階級的団結で打ち破る布陣急ごう。

許す
の
発言

■「教科書問題は内政問題で中国や韓国の批判は内政交渉（小川文相） ■日韓併合は韓国側から、一緒になつてくれと頼まれたもの。日本の侵略ではない」「侵略と書いたのでは、子どもたちが父祖を尊敬

や迫いつめられた鈴木政府は誤解、真意をはかりかねる等の居直りと、経済援助へのすりかえで糾弾のほこ先をかわるうとしてゐる。われわれはアジア人民の糾弾を日本労働階級人民自身ものとして受けとめ、日帝の戦争準備政治運動に抗す闘いを、プロレタリア国際主義に闘したものとつくりだしていかなければ

小名木新証言は、最高裁や検察庁に一定の衝撃(解放新聞)をあたらると同時に、狭山闘争を闘う部落大衆、労働者に新たな活力をあたえている。われわれはこの新たな活力をくみあげ、狭山闘争の更なる全人民的高揚をかちとり、狭山闘争を決定的な水路とした部

落解放運動の革命的・戦闘的・全人民的な前進をかちとつていかな

をもつてたちあがらねばならない。そして、かかる決起を保障するものとして、最低限次の二つの闘いを恒常的におしすすめていく必要がある。第一は、小名木新証言の重要性の確認とその大衆化の闘いである。第二は、わが反戦闘争と狭山闘争の目的的な結合をかちとつていく闘いである。

読者諸君ノ、八・九狭山「上告集

臨調基本審申は農業について、の、据え置き諮問に対する強い怒い農業をつくるための汗と努力が米作を中心に次のように述べているの包囲の中で開かれた。「必要だ」などという目茶苦茶を平

夏一

● 国共謀 (中川科技長官)



と反核・反戦闘争の結合や小名木・揚、歴史的勝利に向け一層拡大し、新証言をとうした狭山闘争の更なよう。